ノットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワーク

下都賀地区生涯学習研究会機関紙

第５４号

ネットワーク

令和２年３月
発　行　下都賀地区生涯学習研究会
事務局　下都賀教育事務所ふれあい学習課内
TEL　0282-23-3422
FAX　0282-23-3502
E-mail
shimotsuga-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

新型コロナウィルス感染症の発生に伴い、公立学校の休校措置等が実施されました。関係各所の皆さま方には、それぞれのお立場で児童生徒の安全・安心の確保と感染症の拡大防止に御尽力されていることと思います。この事態に際し、私たちは社会教育の視点を大切にして学校や地域を見つめ、お互いに補い合い、つながり合いながら、力を合わせて乗り切れるようにしたいですね。

人と人とのつながり

下都賀地区生涯学習研究会　会長
栃木市立栃木西中学校　校長　小林　勇夫

昨年 10 月の台風 19 号は各地に大きな被害をもたらしました。下都賀地区も例外ではなく、とりわけ栃木市では約 7,500 棟が浸水被害に遭ったとのことです。私の勤務する栃木西中も床上浸水し、生徒の家も約４割が被害に遭いました。そんな中、復旧へ大きな力となっていたのが、人と人とのつながりでした。改めて学校を含めた地域コミュニティの大切さを感じた次第です。

さて、新学習指導要領の基盤となる「社会に開かれた教育課程」とは、各学校が地域社会と学校との関わりや、つながりを考慮して編成したものを地域社会と共有すること。そして連携・協働しながら実施していくものです。まさに社会教育主事（有資格者）、地域連携教員が中心となって担うべきものです。意図的・計画的に地域を巻き込んだ教育活動が、それぞれの学校で展開され、学校と地域、人と人とのつながりがより深まっていくことを期待します。

１年間、研修・懇親会等でお世話になりました。来年度もよろしくお願いします。

学校をおうえんしたーい 18

「応援隊の皆さまに感謝を込めて」

栃木市立大平中央小学校　教諭　曽根　美幸

本校の協力（強力）サポーターの皆さんを紹介します。

まずは、大平スポーツネットの皆さんです。２年前から新体力テストでお手伝いいただいています。担当は立ち幅跳び。やり方の説明と計測をお願いしています。「おお！すごーい！！」「大丈夫！もっと跳べるよ！」「うでをもっと振って！そう！その調子！」立ち幅跳びから聞こえてくる、熱のこもった応援。これ全てスポーツネットの皆さんです。声援を受けて子どもたちも笑顔。本当に褒め上手です。

次は、持久走大会ボランティアの皆さんです。走路の安全確保をする立哨担当と救護担当に分かれます。立哨の方は一般の方への呼び掛けと、目の前を走る子どもたちへの応援。これが子どもたちの力となります。看護師資格をもつ救護の方は、養護の先生とともに、ケガや体調不良の子どもの手当をします。子どもたちだけではなく、私たち教師も応援に駆けつけた保護者の方々も、とても頼りにしているボランティアの皆さんです。

本校には他にもたくさんの応援隊がついています。改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

ネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワークネットワーク

リレーとなりの社教主事 48

「新橋地区が誇る、地域の力」

野木町立新橋小学校　教諭　大塚　　尚

私が勤務する新橋小学校は、たくさんの保護者や地域の方々と共にコミュニティ･スクールを推進しています。参画してくださる内容は、学習支援や登下校の見守り、クラブ活動の指導、環境整備など多岐に渡っています。毎日活動してくださる方、複数のボランティアに参加してくださる方もいらっしゃって、とても頼りになる存在です。また、保護者は、ＰＴＡ活動を通して一人１回以上はボランティア活動に参加して、学校を支えてくださっています。

また、昨年度から「ボランティア推進会議」を実施しています。これは、ボランティアの皆さんと学校が集まり、活動についての情報交換とこれからどのように活動を充実していけばよいか意見交換をする場となっています。今年度も実施し、「子どもの成長や笑顔を見ることができて幸せです。」「子どもたちと接することが生きがいとなっています。」という声をいただきました。学校・家庭・地域それぞれにメリットのある連携を考え、これからも子どもたちに関わる活動を充実させていきたいです。

雑感

「二度の災害を体験して」

栃木県立栃木工業高等学校　教諭　阿部　　治

今年１０月の台風１９号に伴う洪水で、本校は１階が水没し、大きな被害を受けました。３月現在、まだ復旧工事が進行中ですが、多少の不便はあるものの、日常の学校生活に戻っています。この間、地域の多くの皆さんから、あたたかいお見舞いの言葉やご支援をいただきました。災害といえば、2011 年の東日本大震災当時、私は学悠館高校に勤務しておりました。学校は、栃木市の要請で帰宅困難者に対応した避難所を開設することになり、私も学校職員として避難所運営をお手伝いする機会がありました。

二度の災害を、被災者と支援者という反対の立場で体験して改めて感じるのは、日頃からの地域とのつながりの大切さです。今回の災害でも、出前講座などで交流している近隣小学校の児童の皆さんからの励ましの言葉をいただき、復旧に携わる生徒たちに、とてもよい刺激となりました。また、学悠館高校では、毎年、地域の皆さんと防災講座を実施していたことが、スムーズな避難所運営にもつながったのだろうと思います。学校と地域に限らず、行政・企業などを含めた様々な機関が、日頃からちょっとした課題について話し合いを持つなど、連携していく機会を増やしていくことが、地域の防災力向上に欠かせないことだと実感しています。

生涯学習研究会第２回研修会（ふれあい学習ネットワーク）

２月６日（木）、壬生城址公園を会場に「下都賀地区ふれあい学習ネットワーク」を実施しました。前半は、国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官 志々田 まなみ 先生を講師に招き、「『育ちあう絆』をつくる３つのプロジェクト～地域学校協働活動をツールとして～」という演題で御講話いただきました。

後半は、「Collabo-Lab ～地域と学校の連携・協働を考える研究所～」として、志々田氏の講話を聞いて明らかになった私の課題について交流したり、地域学校協働活動を実践するためのヒントを意見交換したりしました。地域や大人が、子どもたちに「他者と関わることは楽しい」を伝えていくことの大切さや、人生１００年時代、超スマート社会を幸せに生きていくために子どものうちから伸ばしていきたい「チカラ」について考えることができた機会となりました。

編集後記

毎年恒例の、町駅伝大会。小中学生はもちろん、本町在住・在勤の一般の方も含め、毎年たくさんの参加者が襷をつないで走ります。沿道に集まるたくさんのギャラリーが声援を送り、大変盛り上がります。嬉しいことに、２年前にインフルエンザ流行のために棄権した中学生のチームが、高校生になって同じメンバーで集まり今年の駅伝に参加してくれました。時を越えて襷が『つながり』ました。（U）